

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

カムパネルラが手をあげました。それから四、五人手をあげました。ジョバンニも手をあげようとして、急いでそのままやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだのですが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、本を読むひまも読む本もないので、なんだかどんなこともよくわからないという気持ちです。

ところが先生は早くもそれを見つけたのでした。

「ジョバンニさん。あなたはわかっているのでしょうか。」

ジョバンニは勢いよく立ちあがりましたが、立ってみるともうはつきりとそれを答えることができないのでした。ザネリが前の席からふりかえって、ジョバンニを見てくすつとわらいました。ジョバンニはもうどぎまぎしてまっ赤になってしまいました。先生がまた言いました。

「大きな望遠鏡で銀河をよく調べると銀河は大体何でしょう。」

やっぱり星だとジョバンニは思いましたがこんどもすぐに答えることができませんでした。

先生はしばらく困った様子でしたが、目をカムパネルラの方へ向けて、「ではカムパネルラさん。」と名指しました。するとあんなに元気に手をあげたカムパネルラが、やはり同じ立ちあがったままやはり答えができませんでした。

先生は意外なようにしばらくじつとカムパネルラを見ていましたが、急いで「ではよし。」と言いながら、自分で星図を指しました。

「このぼんやりと白い銀河を大きい望遠鏡で見ますと、もうたくさんのお小さな星に見えるのです。ジョバンニさんさうでしょう。」

ジョバンニはまっ赤になってうなずきました。けれどもいつかジョバンニの目のなかには涙がいっぱいになりました。そうだぼくは知っていたのだ、もちろんカムパネルラも知っている、それはいつかカムパネルラのお父さんの博士のうちでカムパネルラといっしょに読んだ雑誌のなかにあったのだ。それどころでなくカムパネルラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎から大きな本をもってきて、ぎんがというところをひろげ、まっ黒なページいっぱい白い点々のある美しい写真を二人でいつまでも見たのでした。それをカムパネルラが忘れるはずもなかったのに、すぐに返事をしなかったのは、このごろぼくが、朝にも午後にも仕事がつらく、学校に出てももうみんなとはきはき遊ばず、カムパネルラともあんまり物言わないようになったので、カムパネルラがそれを知って気の毒がってわざと返事をしなかったのだ、そう考えるとたまらないほど、自分もカムパネルラもあわれなような気がするのです。

（宮沢賢治「銀河鉄道の夜」による）

(1) 文章中の「ジョバンニ」の様子について、本文と合わないものを次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 手をあげようとしてやめた。
- イ どぎまぎして真っ赤になった。
- ウ もじもじ立ち上がったまま答えができなかった。
- エ まっ赤になっとうなずいた。

答え

(2) 先生から「ジョバンニさんそうでしょう。」と聞かれますが「そう」とは何を指しているか。に当てはまる言葉を書きなさい。

答え

を望遠鏡で見ると、

たくさんの

に見えるということ。

(3) 佐藤さんは、この文章で述べられていることを次のようにまとめました。
次のに入る言葉として最も適切なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その記号を書きなさい。

この文章では、『ジョバンニの目の中には涙がいっぱいになりました。』という描写や、カムパネルラが『すぐに返事をしなかった』ことなどから、ジョバンニのが中心に描かれていることが読み取れる。

- ア 銀河のことを知らない自分へのくやしき
- イ 答えることができたのに、答えなかったカムパネルラへの怒り
- ウ カムパネルラと一緒に読んだ雑誌の楽しさ
- エ カムパネルラが同情してくれている自分への悲しき

(1) 《解答》

ウ

(2) 《解答》

(ぼんやりと白い) 銀河

(小さな) 星

エ